



アークアカデミー

平成29年度文化庁日本語教育大会
パネルディスカッション

これからの日本語教育における人材像 —日本語教師養成講座の現場から—

アークアカデミー

日本語教師養成、留学部、日本語科
校長 遠藤由美子

受講動機

- ・ 海外で仕事がしたい
- ・ 外国人の役に立ちたい
- ・ 日本語を学びたい

卒業後の進路

海外で教える

- ・ 公的プログラム
- ・ EPA日本語研修
- ・ 大学
- ・ 語学学校

国内で教える

- ・ 留学生
- ・ ビジネスパーソン
- ・ 生活者
- ・ 技能実習生
- ・ 外国人児童生徒

研究する

- ・ 大学院進学

養成講座の役割

どのような人材の育成をめざすのか

日本語教師として必要な知識・能力の育成、意識の向上
基礎知識（日本語とその他の言語・教授法・日本事情・
異文化間コミュニケーション等）

授業力（授業デザイン力・授業パフォーマンス・
学習者とのコミュニケーション等）

学習者と社会をつなぐ意識
（学習者の生活、進学・就職活動、ビジネスを
支援するために必要な知識と実践）

自律的に学び成長できる教師
→ 「考える力」の養成

スケジュール

受講期間：6カ月
授業時間：毎週月～金曜日
午前 または 午後
4～5単位時間／日
(1単位時間=45分)

クラス定員

20名／クラス

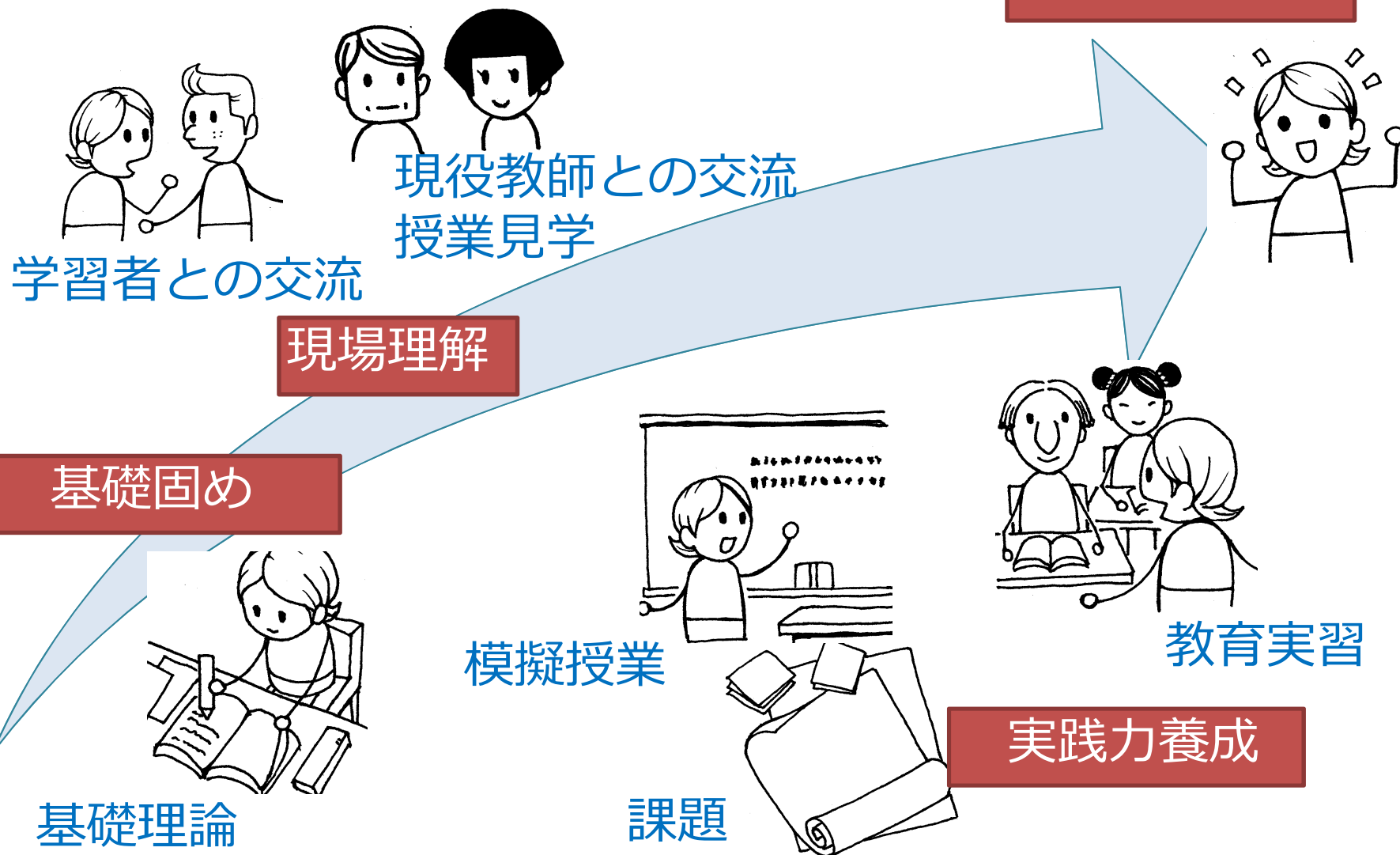
修了要件

420単位時間以上の出席
／470単位時間中
かつ各科目の成績が一定の基準を
満たすこと

区分	科目名	
社会・文化・地域	日本語教育の歴史と現状	理論科目
言語と社会	言語とコミュニケーション	
言語と心理	言語と心理	
言語	音韻・音声	
	文字・語彙	
	文法・文体	
言語と教育	コースデザイン	実技・実習 科目
	教授法	
	授業デザイン	
	初級指導	
	中級指導	
	教育実習	
	交流活動	
その他	就職セミナー	その他

基礎理論から教育実習まで、日本語教師に必要な知識と技術を
しっかり学ぶ

コース修了



日本語教師の働く現場を知る

日本語学校の授業見学、学習者との交流活動、現職教師との交流会等を通して、日本語教育の現場や教師として働くイメージを具体的に描く

大切なことは繰り返し学ぶ

WEB教材の活用により自宅での学習も充実
繰り返し学ぶことで、より広く・より深く学ぶ

学習・就職サポート

クラス担任によるカウンセリング
就職支援（職業紹介事業許可取得）

現状の課題：養成講座の到達度の限界

- ・ 養成講座は基礎部分を学び、キーコンピテンシーの核を育てる場である
- ・ 新人教師を受け入れる側の理解と支援が必要

自律を促すために

- ・ 様々な現場で能力を発揮できるよう支援
- ・ 周りのファシリテータも活用して成長を支える

目指す人材像

- ・ 日本語教育に関する専門性と社会性を意識
- ・ 自分自身で考え、学び続ける姿勢